

乗務要件・訓練審査プログラムに関するヒアリング概要

消防防災ヘリコプターの乗務要件及び訓練審査プログラムに関して全国の消防防災ヘリ運航団体にヒアリングを行った。

期間：2019年11月～2020年2月

ヒアリング数：19団体

乗務要件・訓練審査プログラムに関するヒアリング項目

- 1: 消防防災航空隊における操縦士(整備士、運航管理者等を含む)の配置状況
- 2: 操縦士の乗務体制・勤務形態
- 3: 操縦士の飛行経歴(前職における回転翼航空機の操縦経験の概要)
- 4: 操縦士の飛行時間及び機長時間(総飛行時間・機長時間・型式時間)
- 5: 自主運航団体/委託運航団体における操縦士の養成確保の課題
- 6: 消防防災ヘリのミッション別運航時間
- 7: 消防防災ヘリの運航におけるOJTに割くことができる運航時間
- 8: 自主運航団体に対する座学・実機訓練の実施場所と実施内容
- 9: 二人操縦士体制構築(を目指す)運航団体におけるOJT活用の考え方
- 10: ミッション難易度とミッション別にOJT時間を設ける段階的な訓練審査プログラムについての意見
- 11: シミュレーター訓練の有効性
- 12: 自主運航団体における機長認定基準の有無とその内容

ヒアリング結果

操縦士の養成・確保が難しい

- 農薬散布などの運航が減っており、飛行時間の積み増しが難しい状況
- 自隊訓練をするにも、飛行時間検査や燃料費の関係で実機の訓練時間を確保することが難しい
- 自隊でお金をかけて操縦士を養成しても退職される場合がある
- ドクターヘリの乗務要件を満たす操縦士を採用しようとした場合、比較的高齢の自衛隊や海上保安庁出身の方になり、定年までに残された時間が少ない場合が多い

二人操縦士体制への対応は検討されているが対応が難しい団体もいる

- 操縦士の確保が難しい中で、二人操縦士体制を築くのは難しい状況
- ローテーションも考慮すると1機あたり5名程度の操縦士が必要
- 自主運航団体では経験の浅い操縦士を採用し、自隊で養成することで二人操縦士体制への準備を進めているが、運航委託団体では機長要件を操縦士の仕様に盛り込むため、操縦士の確保が難しい状況
- 過去一人操縦士体制で運航してきた中で安全に運航してきた団体では、二人操縦士の確保のために予算をつけることが難しい団体もある

ヒアリング結果

シミュレーターを用いた訓練の実施は発展途上

- シミュレーター訓練を実施していない運航団体もいる
- シミュレーター訓練を実施している運航団体もいるが、飛行時間を積み増しできるほどのシミュレーター訓練はできていないのが現状(年間45分～5時間程度)
- シミュレーター訓練は有効であると考える運航団体は多いが、国内のシミュレーターを利用した場合でも費用が高く、且つ同じ型式のシミュレーターで訓練できるとは限らないため、利用は進まない
- 系統上の故障の場合は同じ型式でないと訓練が難しいことも利用が進まない一つの原因
- シミュレーター活用のためには、財政支援も併せて検討を実施してほしいとの意見も挙げられた

実機訓練の場所には困っていない運航団体が多い

- 空港や自治体の所有地等で訓練している運航団体が多い
- 一部騒音の苦情を頂く場合もあるが、訓練場所をローテーションする等して対応している

操縦士訓練の一括化の案

- 共通的な訓練施設や訓練組織を設立し、一括で共通的な技能について養成を担う可能性も検討するとよいという意見が挙げられた
- 全国の消防防災航空隊が保有する機種と同型のシミュレーターを保有する組織を設立し、シミュレーター訓練を受託することで、実機を用いずに訓練可能となり有用であるという意見も挙げられた